

## 平成29年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(地理歴史)科目：(地理A) 対象：(第1 学年A組～ E組)

科目担当者：(A組:印)(B組:印)(C組:印)(D組:印)(E組:印)

教科・科目の指導目標	地理に関する基本的な知識を習得し、世界の様々な社会的な事象に対する関心を深め、多角的な視点から、世界認識、地域認識を深める。
------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	基礎的な知識、用語を問う問題では正答率が80%を上回り、中学段階の知識理解ができていると考えられる。しかし、複数の知識を用いて回答を導く問題の正答率は低くなっている。中学段階では本質的な知識理解は不十分であるため、知識の活用する力、思考を構成する力、文章表現力が十分ではないと考えられる。情報読み取りの能力は、問題とその正解がその能力を図るに十分ではなく、不明である。	1. 基礎的な事項の表面的理解はできているので、より深い理解が得られるように、反復学習によって指導する。 2. 社会的事象に関する多角的多面的な視野を養うとともに、事象や自らの考えを表現する力を伸ばす。 ①地図の活用、ならびに基礎的な知識の習得、定着を目指す。 ②社会的事象への関心を喚起し、地球人としての共生の意識を涵養する。	①学習内容を精選するとともに、教材開発を進め、社会の諸課題についての基礎資料を提示することにより、自ら考察する基礎知識の理解を深める。 ②反復学習により、基礎知識の定着を図る。 ③定期考査等において、知識、思考を積み重ねて答える論述式設問を設定し、思考の構成力ならびに文章表現力の育成に努める。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			